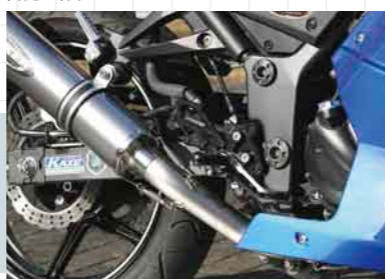


初心者でも乗りやすい車両。
さらに、よりスポーツ志向の強い
上級者対応車に仕上げたい



→フルチタン製フルエキゾーストマフラーも発売中。JMCAに対応するなどストリート走行にも対応する他、レース仕様サイレンサーも用意される

↓開発に意外と手間取ったというストライカー・ニンジャ250R用ステップキット。バンク角不足を解消させるため必要、と開発に着手した



Ninja 250R
の進む道

STAGE2

プロが語る手応え

#2

COLOR'S INTERNATIONAL

自社ブランド「ストライカー」の名でKSR110などで積極的にレースでの展開を見せるカラーズインターナショナル。ニンジャ250Rをレーシングコンストラクターとしてどう見ているのだろうか



カラーズインターナショナル代表
新辰朗

国際ライダーとしてレース活動を続け、プロ引退後に同社を設立。「ストライカー」ブランドでのパーツ開発と同時にカスタムショップ「ストライカーシステム」を展開する

まだ未知数だが
手を入れれば入れるだけ
変化を感じやすい車両

レースが増えれば
盛りあがるはずの車両

ゼファー11000やKSR110などで各種レースに積極的に参戦し、パーツ開発を進めているカラーズインターナショナル。カスタムショップ「ストライカーシステム」を展開する一方、「ストライカー」の自社ブランドでパーツをリリースするなど、レースを通じての開発・展開を見せられているメーカーだ。いち早くニンジャ250Rのパーツもリリースしており、今後の展開にも注目を集めている。その代表の新辰朗氏に現状と今後の展望についてうかがった。

「正直なところ、ニンジャ250Rは車両デリバリーが08年5月に入ってから本格化したということもあり、走る機会自体がそれほど多くなかったことも影響して、まだ手探りの部分が多いです。我々の周りでもニンジャ250Rでレース参戦してみようという声は少ないですし、上手に使える機会・場所が少ないのもあって、僕たちやメディア、メーカーが期待しているような状況からはまだ遠いと思います」

発売当初は品薄状態が続き、なかなか入手できない状況すら起こったニンジャ250R。そのためレースを通じて車両の今後を考えるにしても、その判断材料が少ないのは仕方がない。しかし、とくにスポーツテイストを強く打ち出した250ccクラスのフルカウルモデル登場は市場にとっても久しぶりでもあり、各パーツメーカーへの期待も高まっている。「僕たちも車両に対して期待してい

スがあれば盛り上がってくるんじゃないか。その点はKSR110リリース時にしている気がしています。これからカワサキの有力店さんがイベントなどに力を入れてくると思いますよ」

ちなみに、生産終了となったKSR110と入れ替わる形でニンジャ250Rが盛り上がってくるのだろうか。

「ニンジャ250Rで出られるレースがあること。これがすべてだと思います。KSRもいろんなレースがあったので選択肢も広がりましたし、だからこそおもしろかったですからね。KSRのようにレースが増えればいいことだと思えますし、どんどん盛り上がってもらいたいですね。たとえば、テスト・オブ・ツクバにニンジャ250Rで参戦できるようなクラスが増えたりとか……」

カラーズインターナショナル、そしてストライカーとしての今後の展望としては、ニンジャ250Rのさまざまなレース参戦を考えていると新氏は明言する。やはり参戦してみても、何が必要なのかを実験して知ることが必要でもあるのだ。

「そうなると思う。それにレース専用パーツとして特化することなく、ストリートとの併用も十分できると思いますし。あとはノーマルがおとなしいですから、よりスポーツ志向の高い、上級者に対応できる車両に仕上げるのもアリでしょうね。ストライカーらしいモノにしたいですね」

まだ未来の全ほうは見えないが、逆にそれが希望へとつながる。同社の挑戦も、まだ始まったばかりだ。

ます。メーカーの狙いどころはいいと思うし、素材としてもベシックで、ノーマルの状態で飛び抜けた性能があるわけではないですから、僕らととてもいい素材というか、格好のモデルだととらえています。ですのでマフラー開発を進める際に、パワーが出て十分扱えると考えてフルエキゾーストでリリースしました」

08年、ニンジャ250Rの存在が大きくクローズアップされ、もてめで参戦車両に採用されることが多かった同社のストライカーマフラー。少しでもパワーを出すためのフルエキゾーストという作りが支持されたのでは、と新氏は分析している。「これからのようなレースやイベントも増えてくると思いますが、とくにレースユースを主眼としているわけではなく、いろんなシチュエーションでの使用も想定してフルエキゾーストを選択しました。JMCA対応のストリート仕様とレース仕様と2タイプを用意しています。これもよりスポーツ走行を楽しんでもらえる場面で使ってもらいたいと考えたためです。当社としても2タイプを用意するのはめづらしいことなんです。スポーツ走行、そしてレースにニンジャ250Rを使っていたら、いいと思います」

ニンジャ250Rはストリートよりもスポーツ走行、そしてより実践的なレースにちょうどいい素材と考えている、と新氏は話を続ける。それは東京モーターショーなどのカワサキのブースにレーサーレプリカ的な展示車両があったことから、メーカーもある程度スポーツシーンでの使用を意図していると感じるので



↑KAZEスーパーバイカーズミニレースやテスト・オブ・ツクバなど草レースにも積極的に参戦し、パーツ開発の実践の場としている。ニンジャ250Rでも同様に積極的にレース参戦を考えたいとのことだ

取材協力

ストライカーシステム
YOKOHAMA

ゼファー750/1100のカスタム・チューニングをはじめ、KSR110レースなどにも積極的な参戦を行なっている。「ストライカー」ブランドでのマフラーやパックスステップなども数多くリリースする

◎神奈川県横浜市都筑区中川1丁目22-5
◎045-914-6881
◎http://www.striker.co.jp

